

いきいき

VOL 20
平成21年5月8日
いわき市総合教育センター

■ 21年度も実りの多い年度に

- 21年度がスタートしました。各学校では今年度の特別支援教育の推進体制を全職員で確認し、また、保護者の方の理解も得て今年度の教育活動を進めていることと思います。
- 今年度も「いきいき」の発行を続けていきます。活用をよろしくお願いします。

「発達について考える」……改めて知っておきたいエリクソンの「人間の発達」

エリクソン(Erikson Erik Homburger 1902～1994 米国)は1955年、『幼年期と社会』の中で「人間の8つの段階」としてライフサイクル論を発表しています。

今号では、現在、示唆に富み、納得できるものと高く評価されている、エリクソンの発達理論のサイクルの一部を要約して掲載します。児童生徒一人ひとりの観察や指導、保護者との懇談等に当たって、参考にいただければと思います。

0歳

① 乳児期 = 「基本的信頼感」を身につける

↓

乳児は「愛せるだけ愛せよ」。母親など養育者から世話をされ、守られる中で、心地よい信頼感を獲得します。この経験が他者や自分に信頼感を育み、生きていくうえでの安定基盤となります。

1歳

② 幼児期前期 = 「自律性」を獲得する

↓

自力で目的場所へ行くことなどの行動を通して、自分の気持ちを伝えたり、他者を理解するためのコミュニケーション手段としての「言葉」を体得する時期。

これらが子どもを能動的にさせ、自律性を養います。同時に我慢することや頑張ること、善悪の判断のため等の「しつけ」の始まる大切な時期です。

3歳

③ 幼児期後期 = 「自発性」を獲得する

↓

遊びを通して興味や関心をふくらませ、意欲的になります。それが抑制されると反抗心が現れます。のびのび遊ばせて豊かな感性を培うことが大事な時期。そのエネルギーが子どもの長い人生において、生きる意欲のもとになります。

6歳

④ 児童期 = 「勤勉性」を身につける

↓

子どもに合った課題を与え、それが成功体験になるよう援助し、成就感、達成感をたくさん経験させることが必要です。失敗しても何とかするという感覚の習得も大切です。

言葉や数の概念を急速に獲得する時期でもあります。

10歳

⑤ 思春期 = 「自我同一性(アイデンティティ)」を獲得する

↓

自分と他人は違うことを意識し、自身の長所や短所も鮮明になる時期。初めは、ありのままの自分を受け入れられず精神的に不安定になりがちですが、次第にそれら自分の特性を受け入れ、自分の役割や位置を獲得し、安定への道をたどります。

親や教師は思春期の不安と混乱をよく理解し、温かく見守ることが求められます。

18歳

「いきいき」についてご意見、ご質問があれば総合教育センター松崎までご連絡ください。

